



感謝状を受けられた松本亟生さん

長年の人権擁護で苦労をまでした
松本亟生さん(松の尾)退任、新たに武田文雄さん(赤松)
このたび、長年にわたり人権擁護委員として活躍され、平成十年三月三十日をもって退任された松本亟生さん(松の尾)に、在任中の功績に対して法務大臣から感謝状が贈呈されました。

また、新たに武田文雄さん(赤松)が人権擁護委員の委嘱を受けられました。
人権擁護委員は、国民の基本的人権が侵害されないように監視します。



武田文雄さん

視し、もしこれが侵犯された場合には、その相談相手になり救済のための適切な処置をとるとともに、人権思想の普及・啓発に努めなければなりません。近年、いじめや体罰など子どもをめぐる人権問題も増え、その使命はますます大きくなっています。



気迫あふれる熱戦が繰り広げられました

また、試合態度、選手の礼儀、防具の整理、会場の清掃などを重視し、試合態度と礼儀作法の

最優秀校を顕彰するのも大会の特色となっています。

上郡中学校では、男子チームが順調に勝ち上がり、準決勝戦で昨年優勝の味野中学校(岡山)と対戦。接戦の末、一対二と惜敗しましたが、堂々三位入賞を果たしました。



3位入賞を果たした上郡中学校男子チーム

ご存知ですか？ 赤松の村歌

町出身者からの一通の手紙

年始、現在東京にお住まいの当町出身者の方から、役場に一

通のはがきが届きました。「当

時全国でも稀な赤松村の村歌があつたと思う。調べてほしい」

早速、赤松公民館に問い合わせたところ、「なんと原文を入手し、カタカナの歌詞を漢字に直す」とのことでした。

最近額縁に入れて公民館の研修室に掲示してあるとのことでした。

記憶をひも解いてもらしながらお話を伺いました。

公民館長の西山正樹さんから、

記憶をひも解いてもらしながらお話を伺いました。

● 村歌は昭和十年代に作られたと記憶している。作詩者は尾上繁舟氏で、東京大学の教授をされていた方と聞いている

● 歌詞からは、村人の助け合いの心や活気、地域の誇りなどがうかがわれます。地元の方々もぜひ一度、ご覧になつてはいかがでしょうか。



赤松村歌		
尾上 繁舟	作詩	西山 正樹
佐々木 秀	作曲	西山 正樹
一、順逆の違ひも夢か		赤松の歴史は経りぬ
大御宣御旨畏み		春秋夏秋冬
人世の眞の道を		大御宣御旨畏み
吾らみな正しく踏まむ		春秋夏秋冬
二、いとまなき日々の營み		赤松の歴史は経りぬ
折節の田植草刈り		春秋夏秋冬
助けあひ補ひあひて		大御宣御旨畏み
ほがらかに笑みかはしつつ		春秋夏秋冬
吾等皆相に住まはむ		赤松の歴史は経りぬ
三、千種川潤す土も		春秋夏秋冬
穏らざる年もありません		赤松の歴史は経りぬ
白旗に続く青山から		春秋夏秋冬
大和振り燃やしなむ		赤松の歴史は経りぬ
吾等皆止まず勤めむ		春秋夏秋冬

(当時の村長「山田長次郎氏・河野原」と親交があつた様です)

す)。

● 原文(カタカナ書)は西本酉男氏(大枝)が持つておられたものを上郡高校の深澤景秋

教諭にお願いし、漢字に書き

換えていただいた。

とのことでした。

歌詞からは、村人の助け合い

の心や活気、地域の誇りなどがうかがわれます。地元の方々もぜひ一度、ご覧になつてはいかがでしょうか。